

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 27 年 8 月 27 日 (2015.8.27)

【公表番号】特表 2014-527428 (P2014-527428A)
 【公表日】平成 26 年 10 月 16 日 (2014.10.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-057
 【出願番号】特願 2014-522903 (P2014-522903)
 【国際特許分類】

A 6 1 G 13/12 (2006.01)

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 G 13/00 M

A 6 1 B 19/00 5 0 2

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 7 月 6 日 (2015.7.6)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

肢位置決め装置において、
 患者支持体に取り付け可能なクランプと、
 前記クランプに接続されるように構成された第 1 の支持部材と、
 前記第 1 の支持部材に摺動可能に連結された第 2 の支持部材と、
 前記第 2 の支持部材に離脱可能に多軸連結された肢ホルダーと、
 前記肢ホルダーに取り付けられ且つ前記肢ホルダーから延在している支持翼であって、開創器を前記支持翼に連結する取付け特徴部を備えている支持翼と、
 を備えていることを特徴とする、肢位置決め装置。

【請求項 2】

追跡システムをさらに備えており、前記追跡システムの構成要素は、前記支持翼に取り付け可能になっていることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 3】

前記第 1 の支持部材は、
 前記クランプに接続されたポストと、
 トラックを備える細長バーであって、前記トラックに沿って前記第 2 の支持部材が摺動可能になっている細長バーと、
 をさらに備えていることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 4】

前記第 2 の支持部材は、ボールおよびソケットアセンブリを備えていることを特徴とする、請求項 3 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 5】

前記ボールは、前記肢ホルダーを前記第 2 の支持部材に取り付けるように構成されていることを特徴とする、請求項 4 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 6】

前記肢ホルダーは、前記第 2 の支持部材に対して、3 自由度の運動を行うことができるようになっていることを特徴とする、請求項 5 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 7】

前記第 2 の支持部材は、第 1 のロックを備えており、前記第 1 のロックは、前記第 2 の支持部材が前記細長バーに沿って摺動することができない前記細長バーに対する係止状態に付勢されていることを特徴とする、請求項 3 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 8】

前記第 1 のロックは、力が加えられたとき、前記係止状態から前記第 2 の支持部材が前記細長バーに沿って摺動することができる前記細長バーに対する係止解除状態に移行するように構成されていることを特徴とする、請求項 7 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 9】

前記第 2 の支持部材は、第 2 のロックを備えており、前記第 2 のロックは、前記ボールが前記第 2 の支持部材に対してゼロ自由度の運動をもたらすことができる係止状態、および前記ボールが前記第 2 の支持部材に対して少なくとも 2 自由度の運動をもたらすことができる係止解除状態の 1 つにあるように構成されていることを特徴とする、請求項 4 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 10】

前記細長バーは、第 1 の部分および第 2 の部分を備えており、前記第 1 の部分および前記第 2 の部分の 1 つは、前記ポストに連結されるように構成されており、前記第 1 の部分は、前記第 2 の部分に連結されるように構成されていることを特徴とする、請求項 3 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 11】

前記細長バーは、連結機構をさらに備えており、前記連結機構は、前記第 1 の部分の一端に突起を備えており、前記第 2 の部分の一端に長孔を備えており、前記長孔は、前記突起を受け入れるように構成されていることを特徴とする、請求項 10 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 12】

前記肢ホルダーは、前記クランプに対して 6 自由度の運動において微調整可能になっていることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 13】

前記第 1 の支持部材は、前記クランプに接続可能な支持ポストと、前記支持ポストに接続可能なレールとを備え、前記支持ポストは前記クランプに対して少なくとも 1 自由度の運動において微調整可能になっており、

前記第 2 の支持部材は、前記レールに対して少なくとも 1 自由度の運動において微調整可能になっており、

前記肢ホルダーは、前記第 2 の支持部材に対して少なくとも 3 自由度の運動において微調整可能になっていることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 14】

前記支持翼に連結される開創器をさらに含んでいることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。

【請求項 15】

前記支持翼の少なくとも一部分は、少なくとも部分的に円形であり、仮想中心が、前記肢ホルダーに配置された肢の膝関節の中心と位置合わせされるように構成されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の肢位置決め装置。